

「学校と家庭」and「表現と鑑賞」を相互に関連させた題材計画

今後の感染の拡大に備え、「学校と家庭」の「学び」をつなげ、さらに「表現と鑑賞」に関連させた欲張りな学習活動を提案します！
もちろん、通常の授業で活用できるポイントも、ぎゅーっと詰め込んでいます！



第2・3学年 【題材名】 14歳（15歳）の自分～心の中の自分を見つめて～

本題材の目標

知識及び技能	【知識】形や色彩などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、作者の心情や内面を、全体のイメージや作風などで捉えることを理解する。【共通事項】 【技能】材料や用具の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求して、制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって創造的に表すことができる。「A表現」②技能
思考力・判断力 ・表現力等	【表現】自分の心の中を深く見詰め、感じ取ったことや考えたこと、感情などの心の世界を基に主題を生み出し、単純化や省略、強調などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練る。「A表現」(1)発想・構想 【鑑賞】造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深める。「B鑑賞」(1)
学びに向かう力、 人間性等	美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現の学習活動にした表現の学習活動に取り組もうとする。

鑑賞

① 様々な作家が描いた自画像を鑑賞し、作者の心情、表現意図や工夫を感じ取る。

- ・暗い表情だ。悩みを抱えているのかな。
- ・そっくりに描こうとしなくていいんだね。
- ・顔の向きや表情を工夫すると、いろんな感情を表現できるんだね！
- ・色のつかい方や塗り方を工夫することで、心の中の感情を表現できるんだね！

この学習の後に、自分も自画像を描くという目的意識をもって作家の自画像を鑑賞することで、様々な表現の工夫を知り、その学びが次の表現の学習に生かされていきます。

そっくりに描かれた写実的な表現だけでなく、「こんなに多様な表現があるんだ!」「色の感じや筆のタッチでこんなにも雰囲気やイメージが変わるんだ!」と気付くことができる作品を選びましょう。



学校で

表現

② 今の自分の心の中を見つめる。

- ・言葉に表す。(もやもや、希望、不安、部活に打ち込んでいるなど)
- ・形に表す。(線、点、色など)
- ・色に例えるとどんな色になるのか考える。

今の自分はどんな感情を抱えているのか自分自身とじっくりと向き合い、「今の自分」を見つめていきます。その際、様々な方法で考えていけるようにしましょう。

①の学びが②、③につながるよう、学習の流れが一目でわかるような工夫をしたワークシート等を用意することで、生徒自身が鑑賞で学んだことを表現に生かそうという意識をもてるようになります。

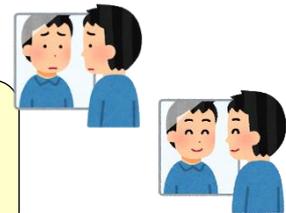
③ どのように表すか考える。



- ・どの位置に自分を入れる?大きさは?
- ・顔や体のポーズは?
- ・表情は?目は?口は?

④ 自画像に表す。

撮影した写真を見ながら描くのではなく、今の自分と向き合えるように、鏡を見ながら描いていくことが大切です!



家庭で・学校で

⑤ これまでの活動を振り返る。

- ・作品にタイトルをつける。
- ・表現意図や表現の工夫についてワークシートに書く。

・自画像に込めた自分の思いが表れるような、こだわりのある作品のタイトルを考えられるようにしたいですね!
・自分の作品を見ながら、どんな表現意図で描いたのか、どんな表現の工夫を行ったのか、言語化することが大切です。

感染症予防を踏まえ、ICTを活用してテレビ会議システム等で意見を交流し合うなど、学校の実態に応じて様々な工夫を行うことができます。

その時の現状や実態を踏まえて、家庭で学びを進めるなら、こういった支援が必要か、ワークシートにどのようなことを書いておく必要があるか等を考えることが大切です。



鑑賞

⑥ 互いの作品を鑑賞し合う。

- ・互いの自画像を鑑賞し合い、作品から感じられることを交流し合う。

感じたことや考えたことを互いに交流することで、自分では気付かなかった見方や感じ方があることを知ることができます。

学校で・家庭で